

議 事 録（ 要 旨 ）

会議の名称	第4回上牧町学校適正化協議会会議
開催日時	令和8年1月13日 午前10時00分から
開催場所	上牧町役場 本庁舎3階 委員会室
出席者 (委員等)	会長、副会長 委員：各小学校PTA協議会代表3名、 自治会代表3名、各小学校長3名、 一般公募町民2名
出席者 (事務局等)	(オブザーバー) 教育長 (事務局) 教育部理事、教育総務課長、教育総務課長補佐、 教育総務課 指導主事、教育総務課 主事2名
傍聴の有無	1名
会議の議事	1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 小学校統合に関する検証について 4. その他(連絡事項等) 5. 閉会
会議資料	・ 「資料NO.4-1：町立小学校施設について」 ・ 「資料No.4-1(参考資料)：上牧町公共施設カルテ (抜粋)」
決定事項	なし
特記事項	なし
次回日程	未定

内容（要旨）

1. 開会

事務局 定刻により開会する。

まず、本協議会は「上牧町審議会等の設置及び運営に関する規則」第10条の規定に基づいて公開とするほか、同規則第12条の規定に基づき傍聴可としている。また、会議録作成のためICレコーダーで録音している。これらのことについてご了承いただきたい。

それでは、配付資料について確認する。

（事務局が配付資料を確認）

2. 教育長あいさつ

事務局 それでは、開会に当たり教育長からあいさつをお願いします。

（教育長からあいさつ）

事務局 それでは、ここからの議事進行は会長をお願いします。

3. 小学校統合に関する検証について

会長 本日は小学校統合に関する検証として、小学校施設の状況について、児童の安全、教育環境の質の確保を図るに当たり、維持管理に関する考え方や将来負担等の観点から検討を行うこととなっている。それでは、事務局か

ら資料の説明をお願いします。

(事務局から資料について説明)

会長 築 60 年が経過する時期を目安として建替を検討すべきとされているが、上牧小学校及び上牧第二小学校においては、令和 13 年度にその時期が訪れる。何も対応しないということは考えられないものと思うが、例えば、築 60 年に達する時期ではなく、対応時期を先に延ばすということは難しいものであるのか。

事務局 あくまでも目安であるため、築 60 年を経過した時点で必ずしも整備をしなければならないということではない。しかし、築 60 年以降に整備するとなると、安全を担保することが難しくなる。児童の命を預かっている施設であり、防災拠点でもあることから、安全面を考えると、一般的には築 60 年を目安に建替を考えていくことになるかと思う。

会長 維持管理にかかるコストについては、令和 8 年から令和 19 年の間で、例えば、資料の総括部分に記載されている内容によると、上牧小学校では約 61 億円、上牧第三小学校では約 42 億円となっており、約 20 億円の差が生じている。これは、施設の老朽化に対する対応の違いによるものか。

事務局 上牧小学校及び上牧第二小学校においては、築 60 年に達する時期を目安に建替を実施するというシミュレーションで計算しているため、コストが嵩んでいる。コスト

が嵩まない形での維持管理が可能であればよいと思うが、上牧小学校及び上牧第二小学校については長寿命化改修を実施していないため、築60年に達する時期を目安として、状況を見つつ、速やかに改築の実施を検討する必要があると考えている。なお、改築の実施に当たっては、現在実施している上牧中学校の整備や、将来的な認定こども園の整備のことを念頭に置きつつ、計画的に進める必要があると考えている。

会長 何か質問等はあるか。

委員 特定建築物定期調査とは何年に1回実施されているのか。

事務局 3年に1回である。なお、上牧小学校及び上牧第二小学校については令和5年度に実施しており、上牧第三小学校については令和6年度に実施している。

委員 次回の特定建築物定期調査の実施結果において、判定がDではなく、BやCであった場合、改築を実施せずとも維持が可能であるという保証になるのか。

事務局 内装については、大規模改装や設備の入替によって維持が可能であるかと思うが、躯体の部分については、劣化が随分と進んでいるため、どのような対応をとったとしても安全面を担保しがたい状態に変化はないものと思う。実際に、コンクリートの剥離やクラックの発生等、様々な症状が生じていることから、状況を見つつ対応をしていく必要があると考えているが、小学校を3校とも

存続させた状態で全ての学校に対して安全対策を講じるということは、配付資料をご覧くださいと明らかなように、難しくなっている状況にある。そのため、時期を見て、施設をどのようにしていくかについて検討する必要があると考えている。

委員 判定にDがなければ、直ちに対策を講じなければならないほど危険ではないと認識してよいのか。

事務局 Dと判定されると、使用不可となる。

会長 Dと判定された場合には、使用停止措置をとるのか。

事務局 学校施設においては、そのような考え方で進めているところである。

会長 改築が可能であれば、学校が綺麗になることから、皆が最も喜ぶとは思うものの、30億から40億円程度の費用が必要になるとのことであった。先程、同時期に2校の改築は財政負担が厳しく、実施は不可能であるとの説明があったが、1校を改築となった場合にも、時期や方法を考慮する必要があるのか。

事務局 これまで様々なハード事業の実施に際して、起債といって地方債を借りつつ実施している。そのため、改築を実施するに当たっては、返済状況等を勘案し、財政と調整しながら計画を立てたうえで対応していく必要があると考えている。また、中学校の建築に関する返済も間もなく本格化することから、当面は改築の実施が難しいと

考える。実情としては、築60年を目安としてではなく、大きな返済が完了した頃に新しい施設を1つ建てられるかどうかという状況であり、3校とも改築を実施することは難しい状況である。

会長 ほかに質問等はないか。

(質問等なし)

会長 事務局から財政面も踏まえつつ将来の見通しを示していただいているが、このことを受けて、何か意見等はないか。

委員 これだけの費用を使って3校を維持していくのはかなり難しいと感じた。資料からみると、例えば1校にして建替にするなど減らすのが妥当な線だと思っている。財政的に1校にするのが、一番コストのかからない方法なのか。それとも、三小はまだ使えるので、1校は建替え、三小は長寿命化するほうが効率的か。

事務局 学校の数が減れば減るほど、維持管理コストは下がっていくかと思うので、財政面だけを考えたら、1校にするのが一番効率的な方法ではあるものの、各地区における児童数がどのように推移していくのか不透明な状況のなかで、現在の規模で、いきなり3校を1校にするということが、果たして本当に子どもたちにとっていい方法なのか疑義は残る。

会長 ほかに意見等はないか。

委員

学校施設は学びの場であるとともに、防災拠点・避難所としても重要な役割を果たしており、地域全体で必要な場所である。現在ある3校の経年劣化の状況については否めないし、維持管理にもすごくお金がかかることもわかる。人口が減ると、税金も減るというピンチからチャンスに変える工夫をしてもらいたい。お金がかかるからなくしてしまうのではなくて、お金はかかるけど、それを少しでも税金を増やしていくための努力、子育て世代にたくさん移り住んでもらえるような取組が急務だと思う。3校それぞれの校区に、移り住んででも行きたいというような魅力のある学校づくりに取り組み、少しでも人口・税金を増やすことで解決してもらいたい。

先日、テレビで天理市の話（みんなの学校プロジェクト）をお聞きして、学校を統廃合するという話から一転して学校を地域のためにも活用しようということで、色々と施策をされているとテレビでやっていた。頑張っ子どもたちのために学校を残して、いかに活用していくかということを考えているんだなど、感銘を受けた。他自治体の事例なども参考にしていけたらという思いである。

会長

上牧町の予算規模に対する30億、40億というのは、かなり大きな割合であるので、非常に奇跡的な税金増がないと、それだけで解決することはまずできない。税金増を目指すことは、もちろん一考としてありだが、本協議会で議論することは飛躍しており差し控えたい。一方で色んな工夫の中でできることはないのかということで、学校の活用のあり方についてご提案いただいた。以前に

教育長から学校に期待することや要望を聞かせてほしいという話があったが、ここで皆さんの意見をいただきたいと思うが、いかがか。

委員

上牧小学校は、増築を繰り返しているほか、地形的な問題で複雑な校舎配置になっている。そのため、教室配置も思うようにできず、安全面、動線面など学校運営上の課題を多く抱えている。施設の老朽化が進行するに伴い、安全面や衛生面など様々な問題がより顕在化しており、改善を図りたいと考えている。来客用駐車場がなく、保護者の送迎対応で支障をきたしている件についても、喫緊の懸念事項として共有しておきたい。

会長

お伝えいただいた懸念事項については事務局でも把握されており、工夫して対応されているものと思うが、その状況についてはいかがか。

事務局

本件に関しては、以前から共有しており、状況は把握している。現状としては、小学校の統廃合に関する方針が決定するまでは、最小限の対応にとどめている状況である。小学校の統合の検証を経て、最終的な方針が出たのち、正式に上牧小学校が存続という方針になれば、対応に向けて考えていけると思っていたが、上牧小学校については、寿命を延ばすということが難しく、そう遠くない将来において、抜本的に対応していかないといけないという状況のなかで、財政面を考えたときに、引き続き最小限にとどめておくべきではないかと思う反面、その学校で過ごす児童がいるので、一定レベルの教育環境は維持したいし、学校生活や教育活動に支障が出るよう

なことも避けたい。そのバランスが非常に難しいと感じている。

会長

小学校の統廃合の方針が決定していないことによって、現時点でも学校の環境整備に影響が出ている。そのため、具体的なことまでは難しくとも、一定の方向性は模索して決定する必要があると考える。その中で、今後、全ての学校を建て替えて維持していくことには難しさがあり、今ある施設の維持だけでは限界が見えてきていることから、税金をより有効に使い、子どもたちにとって快適な環境をつくるため、先程の天理市での事例のように、枠組みを広げ、公共施設に関する工夫について、皆様から意見をいただければと思う。

委員

天理市の取組についてもう少し詳しく知りたい。

委員

学校を地域連携の軸として残し、公民館などの役割を盛り込むなどして子どもたちを地域全体で育て、支え合おうという取組である。老朽化対策、地域活性化、教員の働き方改革、防災などの観点で立ち上げられたプロジェクトで、いろんなところと連携することで、人口が増えたり、協力企業が出てきたりしている。

事務局

おそらく複合化の話だと思われる。学校を単純に学校として整備するのではなく、公民館機能など様々な機能をもたせることで、整備コストを抑えつつ、施設の魅力向上につなげるものだと認識している。複合化事業を対象とした財源もあり効果的な手法であると思う。実際に上牧町でも認定こども園の将来的な整備に向けた検討段

階にあり、近隣自治体でも同様の動きがあるので、ぜひ参考になりたい。

委員 三宅町にも「Mi iMO」という「このまちに住んだらすごく楽しいだろう」と思わせる複合施設が整備されている。上牧町でも、小学校を拠点として、地域ぐるみで楽しめたり、公民館機能や防災機能を持たせたり、包括的な施設にすることで魅力を高めてもらいたい。

会長 色々な可能性があると思う。近頃は、建物を増やすことに対してデメリットがよく語られるため、増やさずになると、複合化ということになると考える。事業主体や予算の問題があり、簡単にはいかないと思うものの、例えば、こども園や幼稚園、保育園を一体化して管理した場合、むしろ小学校との連携がしやすくなるため、メリットの方が大きいかと考える。事務局において、複合化についての検討を進めていただければと思う。

事務局 具体的な検討を進める中で、関係部署と連携を図りつつ、効率化や魅力づくりを含め、考えていきたいと思う。

会長 ほかに意見等はないか。

委員 資料で示されている将来の見通し（維持管理コストのシミュレーション）をみると、令和7年度と令和13年度の状況が近いように思うが、町の財政状況の全体像がみえない。今年度の町予算や地方債の返済計画について教えてほしい。

事務局 今年度は2年間にまたがる上牧中学校新校舎整備の工事割合の比重が大きい年度であるので、かなり特殊ではあるが、全体予算が約115億円で、そのうち教育費は約36億円である。上牧中学校新校舎の工事費としては、今年度だけで約25億円要している。地方債充当額としては20億円弱である。償還期限は30年でうち据置5年である。

会長 本日が第4回目の会議となっており、予定では次回が最終回となる。次回は、これまでの会議内容を踏まえ、方向性をまとめていくことを予定している。

教育長 委員の皆様にお集まりいただいているせっかくの機会であるため、学校活用のアイデアについて、皆様から意見をいただきたくと思う。

会長 承知した。
 次回の会議においてまとめていく方向性としては、3校を2校にすることを目指していくことが必要な状況ではあるものの、3校とも残すことが可能となる方法があれば、それを探っていく。しかし、小学校の統廃合の方針が定まらなければ学校環境の改善への着手が難しくなるという状況も生じるため、ある程度の時期には定める必要がある。また、学校をより魅力のあるものにしていくためのアイデアも探っていく。このような形になるかと考えている。
 学校をより魅力のあるものにしていくためのアイデアについて、意見をいただければと思う。

委員 天理市のような3部制（1部：学校教育、2部：社会教育・福祉、3部：地域活動）の導入をするのが効果的ではないか。

委員 ピアノの先生が発表会の会場で困っていた。ホールを借りると高いので、学校の音楽室を借りれるようになればいいと思った。

委員 上牧第三小学校はグラウンドが芝生であるので、積極的に活用されているが、サッカー等用途が限定的である。芝生の管理や質を高めて、様々な活用をしてもらえたら、より活性化するのではないか。

会長 芝生の管理は手間とお金がかかるものであるが、活用の機会を広げることによって様々な人が管理できるようにすると、芝生の手入れをしたいという方に関わっていただける可能性も出てくるため、よいアイデアであると思う。

委員 学校敷地において、別棟でシアタールームがあれば、児童や学校関係者だけでなく地域のかたにも喜んでもらえるのではないか。

会長 学校教育のためだけでは予算計上が難しいものであっても、地域の皆のために学校に整備するということであれば、実現可能性が高まることもあるかと思う。

学校を含む施設の複合化に当たっては、人の出入りの管理が問題となる。学校安全の維持のため、誰でもいつ

でも入ることはできない。特に子どもたちが学校で過ごす時間帯には非常に強い管理が必要になると考える。そのため、専用の入り口等を設ける必要があり、工事費用がかかることになるかと思うが、多くの人々が有効的に活用できるようになると考えると、さほど大きな問題ではないと思う。

委員 香芝市ではゲストティーチャーの登録があり、人材の活用もされている。学校のために無償で協力しようという人もたくさんいるので、上手に活用していただけたら人件費の削減にはつながるのではないか。

会長 ほかに意見等はないか。

委員 小学校を活用して祭りができると、子どもたちもとても喜ぶのではないか。

委員 小学校にも多世代交流の場ができればいいと思う。内面の成長にもつながると思うし、第三の居場所になるのではないか。

会長 ほかに意見等はないか。

(意見等なし)

教育長 様々な意見をいただき、感謝申し上げます。上牧町の子どもたちには、多くの大人の手を借りつつ、成長してほしいと思っている。学校支援ボランティアの方に協力いただきながら学校運営を進めているため、そのよ

うなところを整理しつつ、より発展させていきたいと考えている。今後も上牧町の教育行政に協力いただけるとありがたいと思う。

会長 先程申し上げたとおり、次回会議はまとめとなる。事務局でまとめの案の作成をお願いしたい。

事務局 4つの観点から検証いただいた結果について、報告書の案のような形式でまとめさせていただこうと考えている。しかし、最終的な結論のまとめ方については、思案しているところである。

会長 統廃合を一旦見送ることが妥当ではないかと結論を出した。そのことを受けての今後の方針についてということになるが、現状、学校施設は老朽化が進んでおり、手立てを講じる必要があるため、このままというわけにはいかない。しかし、財政面から考えると、3校を全て維持し続けることは難しい。子どもたちの教育環境を整備するという観点から考えると、財政的な圧迫はよくないことであることから、学校を減らすことについても検討すべきである。方向性が定まらないままでは教育環境の整備に影響が及ぶことになるため、できるだけ早期に方向性を決定する必要があるが、財政面を含め、次年度以降に検討をするということではいかがか。

事務局 小学校に関しては、現行計画において令和11年度から令和13年度の中で3校を2校に減らすことが定められているが、このことについては白紙とする。小学校の在り方については、どこかの機会に改めて検討することにな

るかと思うが、次年度以降というのは、目安であり、どこかの時機に設けるといふことか。それとも、次年度も検討を引き続き実施するといふことか。

会長 別の場での検討をお願いできればと思う。教育環境という観点から財政面をいかに工面するかという問題に話が移ってきていると思う。そのため、この会では結論を出すことが難しいと考えることから、首長部局等との連携も含め、委員の構成を検討していただいたうえで、別の委員会を設置して検討いただければと思う。また、時間の猶予もあまりないと考えるため、次年度から検討を始めていただければと思う。

教育長 この協議会でいただいた意見については、教育委員会において共有・検討するほか、首長部局とも共有し、今後のことについて協議を進めていければと思う。

4. その他（連絡事項等）

会長 続いて、「その他（連絡事項等）」について、委員または事務局から何か連絡事項等はあるか。

（連絡事項等なし）

会長 次回、事務局から提案いただいた案を検討し、方向性を決定していきたいと思う。

それでは、本日の案件事項は以上となるため、事務局に進行を移したいと思う。

5. 閉会

事務局

以上をもって、第4回上牧町学校適正化協議会会議を
閉会する。

以上